

# FX Power Chart 操作マニュアル

株式会社 FXCM ジャパン

---

Date: 2008/02/25

---

Update: 2009/07/27


---

# 目次

---

Workspaces(ワークスペース) .....	4
Instruments(銘柄) .....	5
Chart type(チャートタイプ) .....	6
Time scale(時間軸) .....	7
View(ビュー) .....	7
Edit(編集) .....	8
Line(線形描画) .....	10
Studies(分析ツール) .....	13
Zoom(ズーム) .....	23
Settings(設定) .....	23
Window(ウィンドウ) .....	24
Help(ヘルプ) .....	24
ツールバー .....	25
右クリックメニュー .....	27
動作環境について .....	28
チャートご利用の注意点 .....	28

ホームページの左側の  
取引ツール「FXリアルタイムチャート」  
をクリックします。

 FXリアルタイムチャート



リンク:「FX Power Chart」をクリックし  
ますと、FX Power Chart のページが  
表示されます。

### FX Power Chart

レベル	利用料	データフィード	技術要件	表示時間
中級	無料	FXCM	Java	東京

[FX Power Chart](#)

[FX Power Chart操作マニュアル](#)

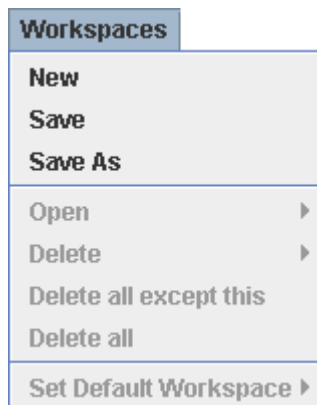
FX Power Chartは、標準で46種類のテクニカル指標がサポートされる、高機能なリアルタイムチャートです。レイアウト保存機能など、自分に適した設定を保存することが可能です。また、複数のテクニカル指標を使い分けたりと、テクニカル分析を重視した積極的なトレードスタイルを持つお客様に最適なチャートです。



下記、FX Power Chart が表示されます。



## Workspaces (ワークスペース)



名称	機能
New (新規表示)	“Workspace name”に任意の名前を入力し OK を押せば、 左上に入力した名前のタブが出てきて、新たなワークスペースを作成できます。 (最大ワークスペース数は20です、1つのワークスペース内で出すことができるのは10チャートまで)
Save (保存)	作成していたワークスペース内で、チャートを変更し、変更した状態を保存します。(例えば、チャートに移動平均線を加えた際、その移動平均線も保存したい場合) 保存したワークスペースから何も変わっていない状態ではこの Save という文字は色が反転していて選択することができませんし、“Workspace name”の設定もありません。 尚、他のワークスペースを出す場合は自動的に保存するかどうか選択できるウィンドウが出てきます。
Save as (名前をつけて保存)	チャートを保存します。
Open (始値)	複数のワークスペースを開いている状態で左クリックし“Workspace name”を選択して頂ければ、そのワークスペースが画面上に表示されます。
Delete (削除)	削除したい“Workspace name”を左クリックし“はい”を押せば そのワークスペースが削除されます。
Delete all except this (選択中以外を全て削除する)	今画面上に出ているワークスペース以外のワークスペースを削除します。
Delete all (すべて削除)	すべてのワークスペースを削除します。
Set default workspace (デフォルトのワークスペースとする)	次回 Power Chart を立ち上げた際に、画面上に出てくるワークスペースを選択できます。

## Instruments (銘柄)

通貨ペアを選択して頂ければその通貨ペアのチャートを表示できます。

(※弊社取引システム『FX Trading Station』では GBP/CAD・GBP/NZD・USD/DKK・USD/HKD・USD/SGD は取り扱っておりません)

Instruments	通貨ペア(英語)	通貨ペア(日本語)	通貨ペア(英語)	通貨ペア(日本語)
EUR/USD	EUR/USD	ユーロ/米ドル	USD/JPY	米ドル/円
USD/JPY	GBP/USD	ポンド/米ドル	USD/CHF	米ドル/スイスフラン
GBP/USD	USD/CAD	米ドル/カナダドル	EUR/JPY	ユーロ/円
USD/CHF	AUD/USD	豪ドル/米ドル	NZD/USD	ニュージーランドドル/米ドル
USD/CAD	EUR/GBP	ユーロ/ポンド	EUR/CHF	ユーロ/スイスフラン
EUR/JPY	AUD/JPY	豪ドル/円	GBP/JPY	ポンド/円
AUD/USD	CHF/JPY	スイスフラン/円	EUR/CAD	ユーロ/カナダドル
NZD/USD	AUD/CAD	豪ドル/カナダドル	CAD/JPY	カナダドル/円
EUR/GBP	NZD/JPY	ニュージーランドドル/円	AUD/NZD	豪ドル/ニュージーランドドル
EUR/CHF	GBP/AUD	ポンド/豪ドル	EUR/AUD	ユーロ/豪ドル
AUD/JPY	GBP/CHF	ポンド/スイスフラン	EUR/NZD	ユーロ/ニュージーランドドル
GBP/JPY	AUD/CHF	豪ドル/スイスフラン	GBP/CAD	ポンド/カナダドル
CHF/JPY	GBP/NZD	ポンド/ニュージーランドドル	USD/DKK	米ドル/デンマーククローネ
EUR/CAD	USD/HKD	米ドル/香港ドル	USD/SGD	米ドル/シンガポールドル
AUD/CAD				
CAD/JPY				
NZD/JPY				
AUD/NZD				
GBP/AUD				
EUR/AUD				
GBP/CHF				
EUR/NZD				
AUD/CHF				
GBP/CAD				
GBP/NZD				
USD/DKK				
USD/HKD				
USD/SGD				

## Chart type (チャートタイプ)

- ✓ CandleStick
- BarOHLC
- Line
- Heikin Ashi
- Dot
- LineDot
- Forest
- BarHLC

名称	機能
Candlestick (ローソク足)	ローソク足です。高値と安値を結んだ線になっており、始値よりも終値が高ければ青色、低ければ赤色で表示されます。
BarOHLC (バーチャート)	高値と安値を結んだ縦線に、始値、終値の横棒を加えたチャートです。 (O:open, H:high, L:low. C:close)
Line (ラインチャート)	終値を結んだ折れ線です。
Heikin Ashi	平均足、またはコマ足と呼ばれる足型です。始値は前日始値と前日終値の平均値、終値は実際の当日四本値を全て足して4で割った数値、高値・安値は実際の当日高値・当日安値をそれぞれ採用します。
Dot (ドットチャート)	終値を点で表示します。
LineDot (ラインドットチャート)	Dot Chart の点と点を結んで描かれたチャートです。
Forest (フォレストチャート)	現在の価格を基準に、上下に棒グラフ(終値)が表示されます。その現在価格からどれだけ離れたかを見ることができます。
BarHLC (HLC バーチャート)	高値と安値を結んだ縦線に、終値の横棒を加えたチャートです

## Time scale (時間軸)

表示されているチャートの時間足を変更することができます。

**Time Scale**

Ticks

1 minute

5 minutes

10 minutes

15 minutes

30 minutes

1 hour

2 hours

4 hours

8 hours

Daily

Weekly

Monthly

Ticks	全ての価格を連続的にプロット (レートが変わるごとに更新されます)		
1 minute	1 分足	1 hour	1 時間足
5 minute	5 分足	2 hour	2 時間足
10 minute	10 分足	4 hour	4 時間足
15 minute	15 分足	8 hour	8 時間足
30 minute	30 分足	Daily	日足
Weekly	週足	Monthly	月足

## View (ビュー)

**View**

**Periods**

**Information**

**Expand Points**

Logarithmic price scale

Crosshair

Volume

Open Interest

Toolbar

名称	機能
Periods (期間)	チャートの表示足本数を自由に設定できます。
Information (情報詳細)	インフォメーション ボックスを表示します。
Expand Points (期間ブランク拡張)	チャート右端の余白本数を調整できます。
Logarithmic Price scale (対数軸)	画面右端のレートを対数レートで表示します。対数レートとは通常の値幅表示とは異なり、通貨ペアのレートが高くなるにつれて、値幅を広げて表示します。 ※対数軸表示の場合、各種トレンドラインが描けません。
Crosshair (ターゲットカーソル)	ポイントの位置を目立たせるために、チャート画面上に十字型の点線(ヘアライン)を表示することができます。 (初期設定では、ここにチェックが入っています)
Volume (出来高)	色が反転していて利用できない機能です。
Open Interest (取組高)	色が反転していて利用できない機能です。

7

Toolbar (ツールバー)	下記ツールバーの表示・非表示が設定可能です。(※初期設定で下記ツールが表示されております。)

## Edit (編集)

### Edit

Drag&drop
Add Annotation
Add Arrow
Edit Object
Duplicate Object
Move Object
Delete Object
Delete All Objects
Delete
Delete All

Drag&drop (ドラッグ & ドロップ)
チェックを入れると、現在表示されているテクニカル指標やチャートを、その他のチャートへ Drag&Drop で移動することが出来ます。
Add Arrow (矢印の追加)
左枠内にチェックを入れれば、カーソルがペンの形になり、チャート上任意の部分にカーソルを合わせ、左クリックしドラッグ後手を離すと、矢印を追加できます。

### Add Annotation (平滑処理の追加)

左側枠内にチェックを入れ、チャート上任意の部分にカーソルを合わせ、左クリックすれば、その場所にテキストを追加できます。下記、“Annotation”(テキスト挿入)ウインドウの Text(文字)タブからテキスト内容を入力し、Style(スタイル)タブからフォントカラー、フォントスタイル、フォントサイズをそれぞれ設定することが出来ます。

入力されたテキストは“Add Annotation”のチェックをはずすことで、チャート上任意の箇所に移動することが出来ます。

### Edit Object (オブジェクトの編集)

Edit Object をクリックしチェックを入れ、編集したいテキストや矢印・ラインなどにカーソルを合わせた後、左クリックでそのオブジェクトの編集ができます。

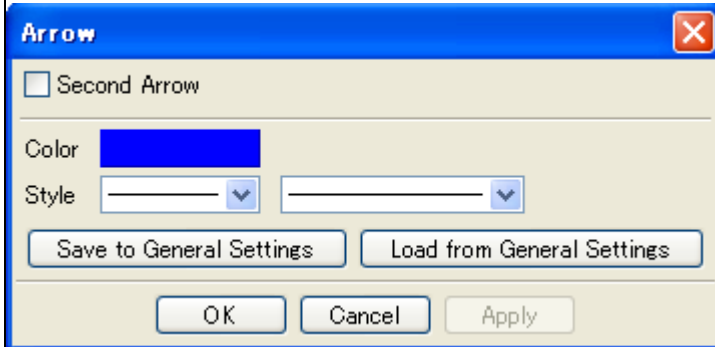
例えば、テキストの編集であれば、“Annotation”(矢印)ウインドウが表示されますので、再び編集を行なうことができます。

また、矢印の編集であれば、

Second Arrow(第2 矢印) : チェックを入れると矢印を新規に作成、追加します。

Color(カラー) : 矢印の色を変更します。

Style(スタイル) : 矢印の太さや線形など、スタイルを変更します。



### Duplicate Object (オブジェクト複製)

Duplicate Object をクリックしチェックを入れ、複製したいテキストや矢印・ラインなどにカーソルを合わせドラッグし、任意の部分で手を離しますと、そのオブジェクトの複製が作成されます。

### Move Object (オブジェクト移動)

Move Object をクリックしチェックを入れ、移動させたいテキストや矢印・ラインなどにカーソルを合わせドラッグし、任意の部分で手を離しますと、そのオブジェクトを移動できます。

### Delete Object (オブジェクト削除)

Delete Object をクリックしチェックを入れ、削除したいテキストや矢印・ラインなどにカーソルを合わせドラッグし、任意の部分で手を離しますと、そのオブジェクトが削除されます。

### Delete All Object (すべての描画オブジェクトを削除)

左クリックし、“はい”を選択すれば、表示されている全てのオブジェクトが削除されます。

### Delete (削除)

“Delete Object”だと、オブジェクト以外削除できませんが、ここを左クリックし、消したいオブジェクトやテクニカルラインなどの上で(色が変わります)、左クリックすれば、そのオブジェクトやテクニカルラインを削除することができます。

### Delete All (すべて削除)

“Delete Object”だと、オブジェクト以外削除できませんが、  
“Delete All”であれば、テクニカル指標も併せて全て削除できます。

## Lines (線形描画)

- Add Lines ▶
- Add Fibonacci Fans ▶
- Add Fibonacci Retracements ▶
- Add Fibonacci Arcs ▶
- Add Fibonacci Time Zones

### Add Lines (ラインの追加)

終値や高値、安値などを中心に様々なラインをチャート上へ追加することができます。

Close(終値) : 直線にて終値から終値を結びます。

High/Low(高値/安値) : 直線にて高値から高値、安値から安値、または高値から安値を結びます。

FreeHand(フリーハンド) : 任意のポイントから自在に直線を引くことができます。

Horizontal close(終値水平線) : 終値を中心として左右に水平線を引くことができます。

Horizontal High/Low(高安水平線) : 高値もしくは安値を中心として左右に水平線を引くことができます。

Horizontal FreeHand(フリー水平線) : 任意のポイントを中心として左右に水平線を引くことができます。

### Add Fibonacci Fans (フィボナッチ・ファンの追加)

フィボナッチ数列(1、1、2、3、5、8、13、21、34...)ではn番目の数÷n-1番目が黄金比(1.618...)に収束します。

この数字の0.618(約62%)と0.382(=1-0.618、約38%)を重視し、チャートの重要な支持線、抵抗線を見るために利用されています。

フィボナッチファンは、2つの上下の価格(例えば、底と天井)の間にトレンドラインを描くことで表示します。

まず、トレンドの開始点と相場のピーク時点との垂直線を描きます。

その垂直線を38%、50%、62%の比で分割し、このトレンドの始点から各分割点(38.2%、50%、61.8%)に直線を引きます。この3本のことをフィボナッチファンといいます。

Close(終値) : クリックしてドラッグした後に手を離せば、その指定した2つの終値から算出したフィボナッチ線3本を引くことができます。

High/Low(高値/安値) : クリックしてドラッグした後に手を離せば、その指定した高値安値から算出したフィボナッチ線3本を引くことができます。

FreeHand(フリーハンド) : 任意の2点から算出したフィボナッチ線3本を引くことができます。



### “Fibonacci Fans” (フィボナッチ・ファン) ウィンドウ

**Percents (パーセント)** : 初期設定では 38.2%、50%、61.8% の 3 本ですが、78.6%、161.8%、23.6% などその他のパーセンテージでもチェックボックスにチェックを入れることで表示することが出来ます。また、Add から直接パーセンテージを入力して追加することもできます。

**Style (スタイル)** : フィボナッチ線 3 本の色や太さ、スタイルなどを変更することが出来ます。また、Show percents にチェックを入れることで、フィボナッチ 3 本線のパーセンテージを表示することが出来ます。

**Trend Line (トレンドライン)** : Expand right および Expand left ではフィボナッチ 3 本線を描く際の任意の 2 点を結んで描いたトレンドラインに対し、延長することが出来ます。Expand left and right when moving line にチェックを入れると、ドラッグアンドドロップでフィボナッチ線 3 本を移動した際に、同時にトレンドラインも追従し移動させることが出来ます。

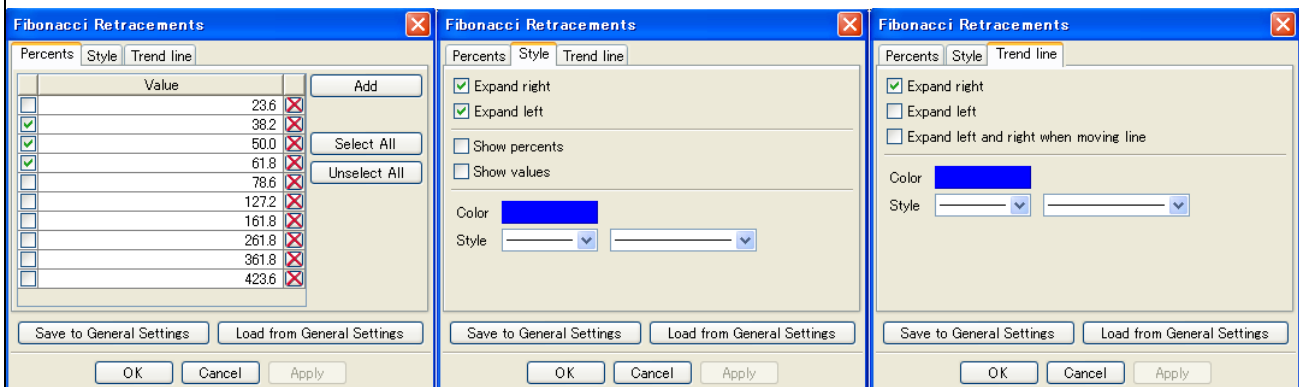
### Add Fibonacci Retracements (フィボナッチ・リトレースメントの追加)

フィボナッチ指数を使って相場の変動幅、目標価格を予測するものです。安値を 0%、高値を 100% として、そこからフィボナッチ指数を元に計算されたパーセンテージ (38.2%・50%・61.8% など) を押し目 (上昇相場中に現れる一時的な値下がり) のこと) や戻り (下降相場中に現れる一時的な値上がり) の目処と捉える考え方です。

**Close (終値)** : 終値と終値の差を算出して 38.2%・50%・61.8% など 3 本の横軸に水平な線を引けます。

**High/Low (高値/安値)** : 高値と高値、安値と安値、高値と安値など差を算出して 38.2%・50%・61.8% など 3 本の横軸に水平な線を引けます。

**FreeHand (フリーハンド)** : 任意の 2 点から算出して 38.2%・50%・61.8% など 3 本の横軸に水平な線を引けます。



### “Fibonacci Retracement” (フィボナッチ・リトレースメント) ウィンドウ

**Percents (パーセント)** : 初期設定では 38.2%、50%、61.8% の 3 本ですが、78.6%、161.8%、23.6% などその他のパーセンテージ

でもチェックボックスにチェックを入れることで表示することが出来ます。また、Add から直接パーセンテージを入力して追加することもできます。

Style(スタイル) : フィボナッチ線 3 本の色や太さ、スタイルなどを変更することが出来ます。また、Show percents にチェックを入れることで、フィボナッチ 3 本線のパーセンテージを表示することが出来ます。

Trend Line(トレンドライン) : Expand right および Expand left ではフィボナッチ 3 本線を描く際の任意の 2 点を結んで描いたトレンドラインに対し、延長することが出来ます。Expand left and right when moving line にチェックを入れると、ドラッグアンドドロップでフィボナッチ線 3 本を移動した際に、同時にトレンドラインも追従し移動させることが出来ます。

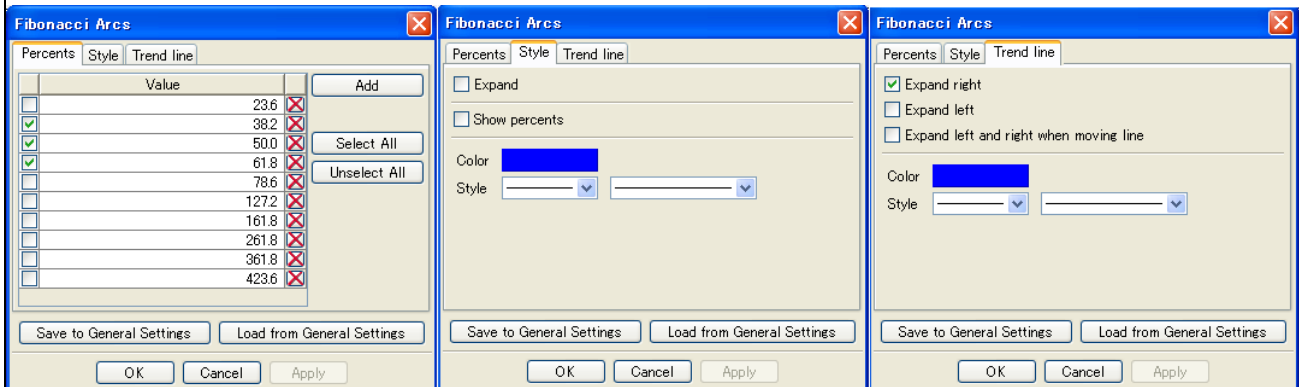
#### Add Fibonacci Arcs (フィボナッチ・アークの追加)

開始地点および到着地点の任意の 2 点の直線距離を測定し、到着地点を中心にそれぞれ 38.2%・50%・61.8%など一定のフィボナッチ指数によるパーセンテージに応じて半円を描いたチャートであり、それぞれ 3 本の半円が高値・安値の目処と捉える考え方です。

Close(終値) : 終値から終値までの直線を 38.2%・50%・61.8%などの比率で区切り、到着地点を中心軸に半円を描きます。

High/Low(高値/安値) : 高値と高値、安値と安値、高値と安値などの 2 点間の直線を 38.2%・50%・61.8%などの比率で区切り、到着地点を中心に半円を描きます。

FreeHand(フリーハンド) : 任意の 2 点間の直線を 38.2%・50%・61.8%などの比率で区切り、到着地点を中心に半円を描きます。



#### “Fibonacci Arcs”(フィボナッチ・アーク)ウインドウ

Percents(パーセント) : 初期設定では 38.2%、50%、61.8%の 3 本ですが、78.6%、161.8%、23.6%などその他のパーセンテージでもチェックボックスにチェックを入れることで表示することが出来ます。また、Add から直接パーセンテージを入力して追加することもできます。

Style(スタイル) : Fibonacci Arcs の 3 半円の色や太さ、スタイルなどを変更することが出来ます。また、Show percents にチェックを入れることで、3 半円のパーセンテージを表示することが出来ます。

Trend Line(トレンドライン) : Expand right および Expand left では Fibonacci Arcs の 3 半円を描く際の任意の 2 点を結んで描いたトレンドラインに対し、延長することが出来ます。Expand left and right when moving line にチェックを入れると、ドラッグアンドドロップで Fibonacci Arcs の 3 半円を移動した際に、同時にトレンドラインも追従し移動させることが出来ます。

#### Add Fibonacci Time Zones (フィボナッチ・タイムゾーンの追加)

指定した開始地点からフィボナッチ数列(1、2、3、5、8、13、21、34・・・)に従って設定本数毎に区切り、それぞれを相場の転換期と捉える考え方です。

## Studies (分析ツール)



<b>ADX【Average Directional Index】（平均方向性評価基準）</b>
DMIの構成要素のひとつであり、主にトレンドの有無および強弱を示すインディケータです。ADXが高い水準で推移する場合は強いトレンドが発生中(トレンドの上下は問わず)であることを示し、低い水準で横ばいを示す場合には狭いレンジ相場であることを示します。
<b>ADXR【Average Directional Movement Index Rating】（方向性指数）</b>
ADXをさらに平均化したインディケータです。前述のADXおよびADXRの組み合わせによるコンバージェンス・ダイバージェンスからトレンドの遷移を探る際に用いられます。
<b>Accumulation / Distribution（A/Dライン）</b>
※現在はご利用頂けません。
<b>Accumulative Swing Index（アキュムレーション スイング インデックス）</b>
直近のトレンドを探るために開発されたインディケータです。ASIは実際のローソク足との連動性が非常に高く、加えてローソク足の突発的な高値・安値による影響を極力受けないように設定されている為、トレンドにダマシが生じ難い指標となっています。
<b>Aroon（アローン）</b>
サンスクリット語で「夜明けの光」を意味するAroonは一定期間内の高値および安値を更新するまでに要した時間を計ることで、トレンドの強弱を示すインディケータです。Aroon upおよびAroon downの2本線で構成され、upが高水準にありdownが低位横ばいを続ける場面では上昇トレンドを、downが高水準にありupが低位横ばいを続ける場面では下降トレンドを指し示します。
<b>Average True range【ATR】（真値幅平均）</b>
ADX・ADXRと同じくDMIの構成要素のひとつであり、TR(True Range)を平均化したインディケータです。TRとは次の3つの数字から最大値を取ります。 1. 当日の高値と安値の差 2. 前日終値と当日高値の差 3. 当日安値と前日終値の差 日々プロットしたTRを一定期間毎に平均化することで、短期トレンドの強弱を推し量ることが出来ます。
<b>Bollinger Bands【ボリンジャーバンド】</b>
ジョン・ボリンジャーが考案したトレンド分析手法であり、単純移動平均線を中心にその上下に最大変動幅を示すバンドを加えたものです。 統計学的に言うと、価格の変動幅が正規分布している場合の1標準偏差(平均値±標準偏差)内に価格の変動幅が入る確立は約68%、2標準偏差(平均値±標準偏差の2倍)内に価格の変動幅が入る確立は約95%とされています。
<b>【パラメーター】</b>
Simple Moving Average : 移動平均期間数
Standard deviations : 標準偏差(2標準偏差であれば2と入力)
Bollinger Color 1 : 移動平均値+2標準偏差
Bollinger Color 2 : 移動平均値-2標準偏差
<b>Center of Gravity</b>

<p>オシレーター系指標の一種で、実線からのディレイ(反応の遅れ)を極力0にすべく開発されたインディケーターです。 一定期間内の終値価格を足し合わせた数値に設定本数を掛け合わせた数値を算出し(NUM)、同じく当日を含む一定期間内の終値価格を足し合わせた数値(DEM)で割った上で符号を入れ替え算出します。 トレンド転換期をいち早く捉えることを目標として、2002年に開発されたばかりの新しいテクニカル指標です。</p>
<p>Chaikin Money Flow (チャイキン・マネーフロー)</p>
<p>※現在はご利用頂けません。</p>
<p>Chaikin Oscillator (チャイキン・オシレーター)</p>
<p>※現在はご利用頂けません。</p>
<p>Chaikin Volatility (チャイキン・ボラティリティ)</p>
<p>Accumulation / Distribution からの派生オシレーター系指標であり、Accumulation / Distribution を算出した後、これをさらに異なる 2 本の EMA で算出し、その差分を採用します。他のオシレーター系指標同様に低位で買いポイント・高位で売りポイントと見ます。</p>
<p>Commodity Channel Index【CCI】(商品チャネル指数)</p>
<p>CCIとは、商品チャネル指数を略したもので、株式、為替の分析に広く利用されています。 ゼロラインの交差でトレンドの転換を観察し、+100を上回ったら買い、-100を下回ったら売りという利用方法です。 CCI=(基準値-基準値の移動平均値)÷(0.015×20日間平均偏差) 基準値:1日の高値安値終値の平均値</p>
<p>【パラメーター】 期間数; 平均偏差(初期値として20日間)</p>
<p>DMI【Directional Movement Index】(ディレクショナル・ムーブメント指数)</p>
<p>DMIとは、為替市場の上昇と下落をそれぞれ指数化し、トレンドの強弱を計算、これをグラフ化したものです。 下記ADXと組み合わせて分析することが多いといえます。 DMIは、一定期間内の変動幅に対して、一方向への動きが占める割合を算出し、それによって現在の相場がボックス圏(保合)なのか上昇トレンド/下降トレンドなのかを識別します。</p> <p>+DIは上昇トレンドを、-DIは下降トレンドを計測します。</p>
<p>1.「+DM」及び「-DM」を下記計算式から求める。 +DM=当日の高値-前日の高値 -DM=前日の安値-当日の安値</p>
<p>2.「TR(True Range)」を下記計算式から求める。 窓空けを考慮し以下の計算値で最大となるものを採用 当日の高値-当日の安値 当日の高値-前日の終値 前日の終値-当日の安値</p>
<p>3.「+DI」及び「-DI」を下記計算式から求める。 +DI={(計算期間の+DMの合計)/(計算期間のTRの合計)}×100 -DI={(計算期間の-DMの合計)/(計算期間のTRの合計)}×100</p>

+DIが-DIを下抜けた場合は売りサインとなります。  
逆に+DIが-DIを上抜けた場合は買いサインとなります。

【パラメーター】

DI Interval : 期間数  
DMI color 1 : -DI  
DMI color 2 : +DI

Detrended Price Oscillator 【DPO】 (トレンド排除価格オシレータ)

ゼロラインを基準にしたオシレーター指標であり、短期の相場サイクル分析手法です。

DPO			
例: EUR/USD 月足 6日DPO 期間数:300			
		6日間	DPO(6)
		単純	終値-4日前の6日
日付	終値	移動平均	単純移動平均
2005/10/1	1.2018	1.2140	
2005/11/1	1.1736	1.2066	
2005/12/1	1.1838	1.2048	
2006/1/1	1.2064	1.2029	
2006/2/1	1.1922	1.1933	-0.0218
2006/3/1	1.2117	1.1949	0.0051
2006/4/1	1.2587	1.2044	0.0539
2006/5/1	1.2803	1.2220	0.0774
2006/6/1	1.2789	1.2380	0.0856
2006/7/1	1.2825	1.2507	0.0876
2006/8/1	1.2836	1.2659	0.0792
2006/9/1	1.2678	1.2753	0.0458

DPO=本日の終値-((n/2)+1)日前の移動平均  
DPO(6)=本日の終値-((6/2)+1)日前の6日移動平均  
DPO(6)=本日の終値-4日前の6日移動平均

【計算式】

DPO=終値-(N日/2+1日)前の移動平均値

Elliot Wave Oscillator (エリオット波動オシレータ)

別名 5/34 オシレーターとも呼ばれるように、5本移動平均線から34本移動平均線を引いた数値で算出されます。短期移動平均線と中期移動平均線を比較することで、目先のトレンドが上向きなのか下向きなのかを把握することに主眼を置いたオシレーター一系指標と言えます。

Envelopes Trading Bands (エンベロープ)

中心となる単純移動平均線にそれぞれ一定の乖離率を加減した平均線を上下2本描くことで示されるテクニカル指標です。レンジャーバンドでは上下2本のラインを描く際に標準偏差を採用していましたが、このエンベロープでは単純に移動平均線からの乖離率で上下2本のラインを描いております。

Ichimoku 【一目均衡表】

<p>一目均衡表を表示します。設定項目ではそれぞれ転換線・先行スパン1・先行スパン2等で算出する設定本数を指定します。先行スパン1および2で挟まれた部分を「雲」と呼び、これを価格の抵抗帯もしくは支持帯と捉えます。</p>
<p>Kairi Relative Index (乖離相関指数)</p>
<p>単純移動平均線と直近の終値との乖離率を示したインディケーターで、その名のとおりに移動平均線乖離率とも呼ばれます。移動平均線との離れ具合から売られすぎ・買われすぎを押し量るオシレーター系指標となります。</p>
<p>Keltner Channel (ケルナー・チャンネル)</p>
<p>基準となる単純移動平均線を中心に、都度 ATR を加減し上下に線を描いたバンドが、このケルナーチャンネルと呼ばれる指標です。使用方法はエンベロープやボリンジャーバンドと同じですが、毎回毎回の最大値幅を考慮してバンドを描く為、ボリンジャーバンドよりさらに実勢価格を反映していると言えるでしょう。</p>
<p>Linear Regression Channels (線形回帰トレンド)</p>
<p>統計学で用いられる回帰分析直線を上下2本加え、チャンネルラインとして描いた指標です。回帰分析直線の特徴を活かし、価格がリニアリグレーションチャンネルから逸脱したポイントをエントリーと捉えます。</p>
<p>Linear Regression Indicator (線形回帰分析)</p>
<p>最小2乗法(それぞれの値からの差を2乗したものの和が最小となる場所を求めたもの)による回帰分析によりトレンドを計算するテクニカル指標です。レートの変動を一次関数または二次関数で表現する統計学的手法で、主に現在のトレンドの方向性を探る際に用いられます。</p>
<p>MACD (移動平均収束拡散法)</p>
<p>移動平均収束拡散法(Moving Average, Convergence and Divergence)との名が示すように、実勢価格とMACDとの方向性の乖離(コンバージェンス・ダイバージェンス)に主眼を置くテクニカル指標です。  MACDは、2本の指数平滑移動平均線(EMA)の差を表しており、チャート上では、MACDラインとシグナルライン、MACDヒストグラム(=棒グラフ)が表示されています。  <math>MACD = \text{短期指数平滑移動平均線} - \text{長期指数平滑移動平均線}</math>  シグナル = MACDの移動平均線  MACDヒストグラム(=棒グラフ)は <math>MACDヒストグラム = (MACD) - (シグナル)</math> で表される数値で、両者の差を取ったものを棒グラフで表示しています。  売買のタイミングとして、「実勢価格が高値切り上げで推移しているにもかかわらず、MACDが前回の高値を抜くことができない状態」(これをダイバージェンスと呼びます)で売りポイント、「実勢価格が安値更新を続けているにもかかわらず、MACDが前回の安値を抜くことができない状態」(これをコンバージェンスと呼びます)で買いポイントと見るのが一般的です。</p>
<p>Momentum (モメンタム)</p>
<p>価格変動の変化率を求めるオシレーター系指標の代表格とも言えるテクニカル指標です。(直近の終値-X日目の終値)単純な数式で表示されるこのモメンタムは、洋の東西を問わず愛好家の非常に多い指標です。</p>
<p>Money Flow Index (マネー・フロー・インデックス)</p>
<p>※現在はご利用頂けません。</p>
<p>Moving Average 【MA】 (移動平均)</p>

<p>単純移動平均線のことで、SMA(Simple Moving Average)とも称されます。株式や商品、為替など市場を問わず広く活用され、一方でこの単純移動平均線をベースにしたテクニカル指標も数多く開発されるなど、最も使用されるテクニカル指標のひとつです。値動きを滑らかにして、相場のトレンドを分析しやすくする目的があります。</p> <p>一定の期間内の終値を合計し、さらに期間数で割った値を都度、直線で結ぶことによって描かれる指標です。</p>
<p>Moving Average, Adaptive 【AMA】 (移動平均(適応))</p>
<p>開発者の名を冠しカウフマン適応型移動平均線(KAMA)とも呼ばれる、派生移動平均線のひとつです。この移動平均線は実勢価格の変動に応じてその感応度を変化させることが最大の特徴とも言われ、ボラティリティ(変動率)が高い相場では感応度は低く、ボラティリティの低い相場ではより素早く反応するように設定されています。</p> <p>つまり、目先の突発的な価格変動の影響を極力受けないように設定されたのが、この適応型移動平均線です。</p>
<p>Moving Average, Displaced 【DMA】 (移動平均(変動))</p>
<p>「ずらした移動平均線」の名が示す通り、単純移動平均線を左右に一定数ずらして描かれた移動平均線のことで。</p>
<p>Moving Average, Exponential 【EMA】 (指数平滑移動平均線)</p>
<p>指数平滑移動平均とも呼ばれる、派生移動平均線のひとつです。MACD の算出にも使用される、この EMA は単純移動平均を改良したもので、直近の値がより平均値に与える影響を高めるように設定された指標です。従って、直近のデータにより比重を置くため、単純移動平均に比べてより早く反応します。また、単純移動平均線とは異なり、対象データの範囲外となる過去の数値も、ある程度考慮するように設定されています。</p>
<p>Moving Average, Modified 【MMA】 (移動平均(修正))</p>
<p>修正移動平均線やRMA【Running Moving Average】とも呼ばれる、派生移動平均線のひとつです。当チャートで採用される修正移動平均線では、一般の派生移動平均線で採用されている数式と異なり、スロープという概念を持たせている点が特徴として挙げられます。</p> <p>Slope = ((n-1)/2 × price + ((N-3)/2 * price[1] + ((N-5)/2 * price[2] + ..... + ((N-(2 * N-1))/2) * price[N-1])</p> <p>MMA = SMA + (6*Slope) / ((N+1) * N)</p> <p>SMA = 単純移動平均線</p> <p>N = 設定本数</p> <p>price [n] = N 本前の価格</p> <p>実勢価格に対し、より機敏に平均価格を連動させるように設計されており、価格の騰落にいち早く対応できるシステムとなっています。</p>
<p>Moving Average, Pivot Point (移動平均(ピボットポイント))</p>
<p>ピボットポイント移動平均線は平均化する対象値として、終値ではなくピボットで用いられるピボットポイントを採用し、これを平均線として算出したテクニカル指標です。</p> <p>ピボットポイント = (高値+安値+終値)/3</p>
<p>Moving Average, Triangular 【TMA】 (三角移動平均)</p>
<p>三角移動平均線とも呼ばれるこの派生移動平均線は、単純移動平均線を2回適応させた移動平均線です。</p> <p>平均化を2回施している為、通常の移動平均線からさらに滑らかな動きを示しますが、これに伴い新規トレンドの発生に対してもやや鈍い反応を示す傾向にあります。</p>
<p>Moving Average, Weighted 【WMA】 (加重移動平均線)</p>

加重移動平均線とも称される、派生移動平均線のひとつです。現在の価格に最も比重を加えつつ、過去に遡るにつれて重みを減らしていくことで、直近の動きをより重視するように設計されています。

#### Nonlinear Ehlers Filter

ノンリニア エーラーズ フィルターと呼ばれるこの指標はモメンタム(原則として5本前と比較して算出)からの変化率を都度プロットしたもので、移動平均線と比較的に近い性質を持っています。直近価格の影響を受けやすく設計されており、いち早くトレンドの変化にも対応できる特徴を備えています。

#### On Balance Volume 【OBV】 (累積騰落出来高)

※現在はご利用頂けません。

#### Optimal Tracking Filter

Optimal Tracking Filter は、ほぼディレイ無しの移動平均線を目指して開発されており、方向性が見えず押し量る術がない場合であっても有効に機能するように Tracking Index と呼ばれる概念を取り入れております。

Tracking Index は KAMA と近い性質を持っており、ボラティリティの低い相場では連動性は高く、ボラティリティの高い相場では連動性は低く設定されており、特に横ばい相場ではその効力を発揮します。

#### Parabolic SAR (パラボリック SAR)

ワイルダー氏が考案したトレンドフォロー系の指標で、売買ポイントを示す SAR と呼ばれるドット・ラインの形状からパラボリック(放物線)という名前がつけられています。

SAR("Stop and Reverse" price point)と呼ぶドット・ラインから、相場反転の時期を読み取るシステムであり、トレンドが反転したと判断した場合にはポジションを途切します。

SAR とは文字通り、“現在のポジションをストップ(清算)し、反対のポジションをとる価格”という意味で、日々算出されるこの SAR に、実際の為替レートが交差した地点が、ポジションを替える(途切する)ポイントであるとしています。

#### Percent Change (前日比(率))

文字通り価格変化率を示します。指定した本数前の価格と直近の価格を比較し、その差分をパーセンテージで表示します。

#### Pivot Point (ピボット)

ピボットとは、当日の高値、安値、終値の 3 つの値を使って、翌日の売買の目安となるサポートライン(支持線)、レジスタンス(抵抗線)を計算するテクニカル分析です。

日々の価格が一定のポイントを中心にピボット(回転)し、振幅することを前提としています。

$$\text{ピボットポイント(P)} = (H + L + C) \div 3$$

H: 前日(当日)の高値 L: 前日(当日)の安値 C: 前日(当日)の終値

ピボットポイントから、ある一定の値が下がった地点を買いポイント(サポート)とします。ある一定の下がる値を高値とピボットポイントとの差に求め、以下の式となります。

$$\text{買い 1} = \text{サポートライン 1 } S1 = P - (H - P) \rightarrow S1 = 2 \times P - H$$

$$\text{買い 2} = \text{サポートライン 2 } S2 = P - (H - L)$$

$$\text{買い 3} = \text{サポートライン 3 } S3 = S2 - (H - L)$$

ピボットから、ある一定の値が上がった地点を売りポイント(レジスタンス)とします。ある一定の上がる値を安値とピボットとの差にて求め、以下の式となります。

$$\text{売り1}=\text{レジスタンスライン1} \quad R1=P+(P-L) \rightarrow R1=2 \times P-L$$

$$\text{売り2}=\text{レジスタンスライン2} \quad R2=P+(H-L)$$

$$\text{売り3}=\text{レジスタンスライン3} \quad R3=R2+(H-L)$$

#### Price Channels (プライス・チャンネル)

一見するとボリンジャーバンドに似ている、このプライスチャンネルは、過去一定期間内の最高値をアッパーバンド、同じく一定期間内の最安値をロウアーバンドとして描出されます。使用方法もボリンジャーバンドと同じくアッパーバンド付近で売り、ロウアーバンド付近で買いと見るなど、オシレーター系指標として使用するのが一般的です。

#### Price Oscillator (プライス・オシレーター)

プライスオシレーターは異なる2本の単純移動平均線の乖離率を示しています。実勢価格が騰勢を強め、上値追いの展開を見せると必然的に短期移動平均線と長期移動平均線の乖離幅は広がります。同じく、大幅下落を続ける局面においても短期移動平均線は長期移動平均線から大きく下方に乖離幅を見せる為、過熱感・値頃感からポジションメイクを行なう際に利用するテクニカル指標と言えます。

$$\text{プライス・オシレーター} = (\text{短期移動平均線} - \text{長期移動平均線}) / \text{短期移動平均線} \times 100$$

#### Rate of change 【ROC】 (変化率(ROC))

現在のレートと何日か前のレートの差をあらわすインディケーターです。両者間の価格差をパーセンテージで表示します。

$$\text{ROC} = (\text{直近終値} - \text{過去の終値}) / \text{過去の終値} \times 100$$

#### Relative Strength Index 【RSI】 (相対力指数)

数あるオシレーター系指標の中でもストキャスティクスと並び代表的な指標がこのRSIです。直近の一定期間において上昇・下落のどちらの勢いが強いかが計測したもので、全体の変動幅のうち、上昇幅がどの程度占めているかを表す分析指標です。

$$\text{RSI} = 100 \times \{ \text{上昇変動平均} / (\text{上昇変動平均} + \text{下落変動平均}) \}$$

一定の期間において、下落幅が一切なければRSIは100となり、逆に上昇が一切なければ、RSIは0となります。

#### Stochastic (Fast, Full, Slow) (ストキャスティクス F, Full, S)

ストキャスティクスとは、価格の終値の位置と定められた本数の価格範囲を比較するオシレーター系のテクニカル指標です。

また、直近の終値がある一定期間の価格レンジの中で相対的にどのレベルにあるのかを計る手法とも言えます。ストキャステックスでは2本の線が使用され、それぞれ%Kライン、%Dラインと呼ばれています。計算式は以下のようになります。

$$\%K = 100 \times \{ (\text{直近終値} - \text{該当期間最安値}) / (\text{該当期間最高値} - \text{該当期間最安値}) \}$$

$$\%D = 100 \times \{ (\text{直近終値} - \text{該当期間最安値}) \text{の} n \text{本数合計} / (\text{該当期間最高値} - \text{該当期間最安値}) \text{の} n \text{本数合計} \}$$

%Dラインとは%Kラインをより滑らかなにした指標で、n本前から直近までの%Kの平均値です。ストキャステックスでは、0%から100%までを%K、%Dの2本のラインが上下に振動するように設定されており、70%以上は価格レンジの上限に近づいていることを示し、30%以下では価格レンジの底に近づいていることを示しています。

ストキャスティクス分析では特に%Dの動きを重視します。また、動きの速い%Kラインが動きの遅い%Dラインに対しどのようなクロスするのかを観察します。

通常の%Kライン、%Dラインを用いるストキャスティクスをファーストストキャスティクスとも称します。ファーストストキャスティクスは、マーケットの変動に過敏に反応することがある為、%K、%Dの変化も大きくなってしまいます。  
 そこで、よりストキャスティクスの動きを滑らかにする為に設定されたのがスローストキャスティクスです。ファーストストキャスティクスの%Dをスローストキャスティクスの%Kとし、スローストキャスティクスの%Kのn本数平均値をスローストキャスティクスの%Dとします。

#### Stochastic RSI (ストキャスティクス RSI)

通常のストキャスティクスでは実勢価格を元に算出されますが、このストキャスティクス RSI では実勢価格ではなく都度の RSI を利用し、算出します。

$$\%K = 100 \times \left\{ \left( \text{直近 RSI} - \text{該当期間 RSI 最安値} \right) / \left( \text{該当期間 RSI 最高値} - \text{該当期間 RSI 最安値} \right) \right\}$$

$$\%D = \text{上記}\%K \text{の } n \text{ 本数 EMA}$$

見方・使用方法については、上述のストキャスティクスと変わりありません。

#### Time Series Forecast (予想分析)

タイムシリーズフォーキャストは回帰分析直線の数式を構成要素として取り込んでおり、過去の実勢価格の推移から将来の価格変動幅を予測することを目的に設計されています。移動平均線と似た動きを示しますが、回帰分析直線を取り込んでいることから、トレンド変化に対し柔軟性が高いことが特徴として挙げられます。

#### Trix (トリックス)

指数平滑移動平均(EMA)にて算出された都度の数値を、さらに同じくEMAで2回に渡り適応化させ、算出された数値の変化率をプロットしたものがこのトリックスになります。0%を基準とし一定水準を超えたレベルを売りポイント、一定水準を下回ったレベルを買いポイントと判断します。

特徴としては、数式からわかるように移動平均化を計3回に渡り行なっている為、ボラティリティの高い相場でも影響を受けることなく、トレンドを忠実に把握できるように設計されている点が挙げられます。

#### Ultimate Oscillator (アルティメイト・オシレーター)

ラリーウィリアムズが考案したオシレーター系テクニカル指標です。為替レートとオシレーターの逆行現象に注目し、売り買いのポイントを探る手法が広く用いられます。

その日その日の高値から終値への価格変動を売り圧力と考え、安値と終値との差を買い圧力と考えます。

この方法では、窓(ギャップ)の発生も考慮に入れて、その日の高値が前日の終値より安い場合、その日の安値が前日の終値よりも高い場合には、前日の終値も勘案します。3つの異なった期間(N1、N2、N3)の加重平均を用います。

1.

$$\text{直近の買い圧力の値幅} = \text{直近終値} - \text{真の安値 (True Low)}$$

$$\text{直近の全変動幅} = \text{真の高値 (True High)} - \text{真の安値 (True Low)}$$

$$\text{真の安値} = \text{直近安値と直近終値を比較し安い値}$$

$$\text{真の高値} = \text{当日高値と前日終値を比較し高い値}$$

2.

$$N1 \text{ 本数の買い比率} = \text{過去 } N1 \text{ 本数の買い圧力合計} / \text{過去 } N1 \text{ 本数の全変動幅合計}$$

$$N2 \text{ 本数の買い比率} = \text{過去 } N2 \text{ 本数の買い圧力合計} / \text{過去 } N2 \text{ 本数の全変動幅合計}$$

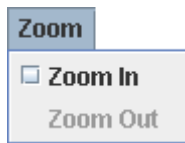
$$N3 \text{ 本数の買い比率} = \text{過去 } N3 \text{ 本数の買い圧力合計} / \text{過去 } N3 \text{ 本数の全変動幅合計}$$

3.

$$\text{Ultimate Oscillator} = \{ (N1 \text{ 本数の買い比率} \times 4) + (N2 \text{ 本数の買い比率} \times 2) + (N3 \text{ 本数の買い比率}) \} / 7$$

<p>売買のタイミングとしては、MACD 同様、ダイバージェンス・コンバージェンスで判断する方法が一般的です。</p> <p>売買のタイミングとして、「実勢価格が高値切り上げで推移しているにも関わらず、Ultimate Oscillator が前回の高値を抜くことができない状態」(これをダイバージェンスと呼びます)で売りポイント、「実勢価格が安値更新を続けているにも関わらず、Ultimate Oscillator が前回の安値を抜くことができない状態」(これをコンバージェンスと呼びます)で買いポイントと見ます。</p>
<p>William's %R (ウィリアムズ %R)</p>
<p>%R とは、著名トレーダーのラリーウィリアムズ氏が開発したオシレーターで、ストキャスティクス%K の分子部分を、高値と終値の差にかえたテクニカル手法です。</p> $\%R = -100 \times \left\{ \left( \text{該当期間最高値} - \text{直近終値} \right) / \left( \text{該当期間最高値} - \text{該当期間最安値} \right) \right\}$ <p>通常、%R は、0 から 100%のレンジを変動しますが、弊社の%R では 0 から -100%までの範囲で推移します。</p> <p>買い勢力がピークに達し、終値がその値幅の天井に位置するときに 0 となります。反対に売り勢力がピークに達し、直近の値幅の底で価格が引けた場合に -100%に到達します。</p> <p>つまり、%R はストキャスティクスが目盛りと異なり、買われすぎの目安は -20%から 0 までの領域に、売られすぎは -80%から -100%までの領域となります。</p> <p>%R の売買ルールは、%R が -20%から 0%までの買われすぎの領域、または -80%から -100%までの売られすぎの領域にある状態で、%R の動きと価格の動きが反対となった時、買いシグナル、売りシグナルが発生します。</p>
<p>Zig-Zag (ジグザグ)</p>
<p>ジグザグはカギ足等と同じく、非時系列のテクニカル指標です。直近の高値もしくは安値から指定したパーセンテージ以上、実勢価格が変動してきた場合に直線を描きます。同じトレンドが続く場合には直線を延長しますが、直近の高値もしくは安値が更新された後、反対方向へ再び指定したパーセンテージ以上に動いた場合は、直線を描きなおします。</p> <p>こうして直線が右肩上がり・右肩下がりなど繰り返す格好を示すことから、ジグザグと名付けられました。</p> <p>ジグザグを使用する際のポイントとして、パーセンテージをどれぐらいに設定するか、が挙げられます。</p> <p>対象通貨ペアによって変化率は異なる為、どのあたりまでをノイズ(参考対象外)と認識するかが重要です。</p>

## Zoom(ズーム)



名称	機能
Zoom In (ズーム・イン)	ここを押した後にチャート内で拡大したいところをドラッグしてすればその部分が拡大されます。
Zoom Out (ズーム・アウト)	【Zoom In】一回分元に戻ります。

## Settings(設定)



名称	機能
Setting (設定)	Background : FX Power chart の外側背景色を変更します。 Chart border : チャートの囲み枠の配色を変更します。 Info text font : チャート左上の通貨ペア名、足型などの表示フォントタイプを変更します。 Axis text color / font : レート表示や時刻表示のフォント/配色を変更します。 Axis ruler color : レート目盛り部分の配色を変更します。
Time Zone(タイムゾーン) Protocol(プロトコル)	採用時間表記を変更します。 データ配信方式を Streaming / Poling に変更します。 ※通常は Auto を使用します。
Look & Feels (外観デザイン)	ウインドウのデザインを Windows か Metal で選択可能です。

## Window(ウインドウ)

Window
Cascade Tile horizontally Tile vertically
Print Print preview
Restore All Close All
USD/JPY, 1 hour USD/CHF, 1 hour GBP/USD, 1 hour ✓ EUR/USD, 1 hour

名称	機能
Cascade (カスケード表示)	cascade とは、「滝状のもの、次々と接続すること」という意味です。ウインドウを重ねて表示します。
Tile Horizontally(横に並べて表示)	horizontal とは、「水平の、横の」という意味です。表示しているワークスペース内に出している複数のチャートを行並び(上から下に)に整列させます。
Tile Vertically(縦に並べて表示)	vertical とは「垂直の、縦の」という意味です。ここを押すと、表示しているワークスペース内に出している複数のチャートを列並び(左から右に)に整列させます。
Print(印刷) Print preview (印刷プレビュー)	Print では選択されているチャートを印刷することが出来ます。 Print preview では印刷イメージを確認することが出来ます。
Restore All (全て元に戻す) Close All (全て閉じる)	Restore All では、最大化や最小化したウインドウを元通り表示させることが出来ます。 Close All ではワークスペース内のチャート全て消すことが出来ます。

## Help














Help
User's Guide About

名称	機能
User's Guide (ユーザー・ガイド)	Net Dania のオンラインマニュアル(英語版)です。
About (バージョン情報)	チャートの提供先 Net Dania のロゴマーク、および FX Power chart のバージョン情報をご確認頂けます。

## ツールバー



	New Workspace 【Workspaces】の New の機能です。
	Save Workspace 【Workspaces】の Save の機能です。
	Save Workspace As 【Workspaces】の Save as の機能です。
	【Chart type】の Candle stick の機能です。
	【Chart type】の Bar OHLC の機能です。
	【Chart type】の Line の機能です。
	【Time Scale】の Ticks の機能です。
	【Time Scale】の 1 minute の機能です。
	【Time Scale】の 5 minutes の機能です。
	【Time Scale】の 10 minutes の機能です。
	【Time Scale】の 15 minutes の機能です。
	【Time Scale】の 30 minutes の機能です。
	【Time Scale】の 1 hour の機能です。
	【Time Scale】の 2 hours の機能です。
	【Time Scale】の 4 hours の機能です。
	【Time Scale】の 8 hours の機能です。
	【Time Scale】の Daily の機能です。
	【Time Scale】の Weekly の機能です。
	【Time Scale】の Monthly の機能です。
	【View】の Periods の機能です。

	【View】の Information の機能です。
	【View】の Expand Points の機能です。
	※現在はご利用頂けません。
	【Lines】の Add lines (close) の機能です。
	【Lines】の Add lines (High/Low) の機能です。
	【Lines】の Add lines (Horizontal High/Low) の機能です。
	【Lines】の Add lines (Free Hand) の機能です。
	【Edit】の Drag & Drop の機能です。
	【Edit】の Duplicate Object の機能です。
	【Edit】の Delete の機能です。
	【Edit】の Delete All の機能です。
	【Zoom】の Zoom In の機能です。
	【Zoom】の Zoom Out の機能です。
	インターネット回線への接続状況を示しています。
	チャート画面の Attach / Detach を行ないます。 ウインドウから分離(これを Detach といいます)された後、さらに拡大表示することが出来ます。 また、Detach されたチャートでこのアイコンをもう一度クリックすると、元に戻す(これを Attach といいます)ことが出来ます。

## 右クリックメニュー

Information	
New	▶
Overlay	▶
Relative to	▶
Chart Type	▶
Time Scale	▶
Studies	
Properties	

名称	機能
Information (情報詳細)	【View】の Information の機能です。
New (新規表示)	表示中のウインドウ内へ新しく通貨ペアを表示します。
Overlay (既存画面に重ねて表示)	同じウインドウ内に2つの通貨ペアのチャートを表示します。 (縦軸の値も左右にそれぞれ表示)
Relative to (相関対象)	Overlayと同じく、同じウインドウ内に2つの通貨ペアのチャートを表示しますが、目盛りがパーセンテージ表示となり、それぞれの通貨ペアの価格変化率の推移を確認することが出来ます。 ※このパーセンテージはあくまでも目安として表示しているものであり、特に通貨ペア自体に起因するものではありませんので、ご注意ください。
Chart Type (チャートタイプ)	【Chart Type】の機能です。
Time Scale (時間軸)	【Time Scale】の機能です。
Studies (分析ツール)	【Studies】の機能です。
Properties (プロパティ)	General : チャートタイプ・表示足型・表示本数・チャート右側の余白本数など、各種設定を変更します。 Colors : ローソク足やオーバーレイ、チャート背景色やテキスト表示色など、各種配色を変更します。 Time Zone : 採用時間表記を変更します。 Zoom : Zoom In 機能を使う際の、表示方法・配色を変更します。

## 動作環境について

Java	Java Plug-in 1.5 以降のバージョン
Windows	CPU : Intel Pentium III 1GHz Processor 以上 メモリ : 256 MB RAM 以上 Internet Explorer, Firefox, Opera, Netscape, Google Chrome のブラウザに対応
Macintosh	CPU : 750 MHz G4 Processor 以上 メモリ : 256 MB RAM 以上 Safari, Firefox, Opera のブラウザに対応
Linux	CPU : Intel Pentium III 1GHz Processor メモリ : 256 MB RAM Firefox, Opera, Netscape のブラウザに対応

## チャートご利用の注意点

チャートを表示するには、ブラウザに Java がインストールされている必要があります。

下記URLよりダウンロードし、お使いのコンピュータにインストール後、チャートがご利用いただけます。

URL: [http://java.com/ja/download/download\\_the\\_latest.jsp](http://java.com/ja/download/download_the_latest.jsp)

※Java のインストールを行った場合、お使いのパソコンによっては不具合が生じることがあります。万一、不具合が生じた場合には、一度 Java をアンインストールして、再度インストールをお願いいたします。

※Java のインストールにつきましては、提供元であるサン・マイクロシステムズ株式会社へお問い合わせください。

外国為替取引は相対取引となりますので、各取引会社・各情報ベンダーにより提供される外国為替レートは異なります。チャート提供会社は、取引所等の機関から発表されたデータではなく、独自に収集した外国為替相場を用いてチャートを生成しています。そのため、同じ通貨ペアのチャートでも提供会社によりデータに違いが生じます。必ずしもチャートに表示されている外国為替相場が取引が成立しているとは限りませんので、ご注意下さい。各種チャートは、リアルタイムで自動更新が行われます。閲覧者が集中しますとシステム的にアクセス制限がかかることや更新がストップすることがあります。その際には、チャートを一旦閉じてから再度アクセスしていただくか、時間を置いてアクセスしていただくようお願い申し上げます。各種情報の内容につきましては、正確であるように努めておりますが、その内容を保証するものではありません。これらの情報によって生じたいかなる損害につきましても、弊社は一切責任を負いかねます。また、弊社が提供するすべての情報について、弊社の許可なく転用・販売することを禁じます。尚、掲載内容は情報提供を目的としております。投資等の勧誘または推奨を目的としたものではありませんので、お取引のご判断はお客様自身で行ってください。